

認定 NPO 法人 行徳野鳥観察舎友の会 会報 第 225 号

すずがも通信

2017 年 8 月 13 日 発行

2017
8 月

ISSN 2185 632X



「トビハゼ」撮影&提供 石川 一樹氏

☆表紙の写真を募集しています。あなたの力作、お待ちしております！

※すべて載せられるわけではありません。また、スタッフの独断で選ばさせていただきますのでご了承ください。

キ/コ班／保護区に広がるキ/コワールド

平成 28 年度総会報告

(昆) 虫班／虫のシーズン到来！

トビハゼ祭り無事終了！

保護区作業／
～バトルしました～

フィールドミュージアム／江戸前干潟研究学校

☆5・6月の保護区作業～草とバトルしてきました～☆

～夏の草刈り・恐るべき再生力～

暑くなってくると保護区の作業は観察路や畦の維持に湿地内の開けた水面の確保などのいわゆる草刈りが多くなってきます。これはそれだけ草の伸びが著しいという事になるわけです。観察路の草刈は秋～冬は2～3ヶ月に一度ほどで十分通れるのですが5～9月にかけてほぼ毎月刈る必要があり、特に今の時期は1ヶ月放置すると「あれ、ここ通れたっけ？」と思うほど草に覆われます。

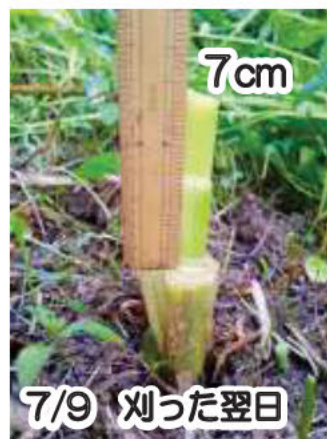
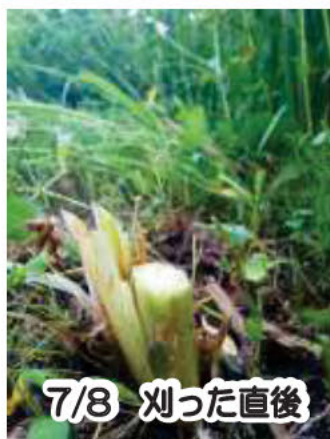
湿地内も同様に水を含んでいる分さらに草の勢いが強くなることも。

観察路・湿地で伸びてくる植物は様々ですがこの中で一番再生能力が高いのは恐らくガマ（保護区内のガマはほとんどがヒメガマです。）でしょう。

地下に根を張り巡らせるガマは地表部分のみを刈るだけだと新たにどんどん伸びてきます。下の写真は浄化池の畦に生えていたガマを刈った後の様子です。

左は刈ってすぐの様子。中央は刈った翌日で既に7cm伸びています。

右は6日後、35cmも伸びました。こういった植物の生命力に圧倒されながらも夏の草刈は延々と続いていきます。



野鳥病院日誌

2017年5月～6月版 第4号 担当:ゆきおんな

5月に入り気温の上昇とともに増えてくるのがヒナの入所。

そのほとんどが誘拐によるものです。地面にいるヒナを見つけたときかわいそう！

助けなきゃ！ですが、親が近くにいるはず。育てることはできても野生での生活を教えることは人間にはできません。そして放鳥する場所は保護区で、右も左もわからない上に、親兄弟もいないところで放されることはかなりのリスク！

ケガなどをしてなければ木の上などに置いてあげて遠くから見守ってください。

近すぎると親は近寄れません。彼らのためにご協力お願いします。

保護区に広がるキノコワールド

キノコ（菌類）って実は、地味～に見えてものすごくスケールの大きなイキモノ。

奇想天外な色や形で突然現れては跡形もなく消える神出鬼没なキノコ（子実体）は、植物の花のような生殖器官。しかしてその実体は、時に山ひとつ分もの広さにひそかに張り巡らされる菌糸なのです。多くのキノコが植物と手（菌糸）を結び、その生活を支えています。キノコは落ち葉や動物の糞などを分解して無機質に変えて植物に供給。その見返りとして植物から光合成の産物である糖分をもらって生きています。

またキノコは昆虫や人間を含む哺乳類の食料にもなる存在ですが、逆に虫を襲って虜にする殺し屋みたいなヤツ（いわゆる冬虫夏草）もあります。

保護区には、鳥が種を運んできたヤマグワに胞子を吹きかけて寄生しちゃうキノコなんていうのも住んでます。

さらには、なぜだかカブトムシの匂いがするピンク色のキノコもニョキニョキと…ほらいま、あなたが飛び越えたタヌ糞のそばに、キノコ、生えてますよ！

保護区散策の際は、どうぞ足元にも注目してみてください♪（キノコ班 中村麻衣）



ヤマグワに寄生する
キツネツワシ



タヌキの糞のそばに
生えたナヨタケの仲間



カブトムシの匂いがする
ニオイコベニタケ

暑くても とっても元気 虫たちの競演！

暑くなりました。

今年度の昆虫班は、雨で中止になることが今までになく多く、7月初めまでで、7回しか調査できていません。にもかかわらず虫の数ときたら・・・。

ということで、中間報告をしたいと思います。（7月8日現在）



ゴマダラカミキリ

クモの仲間・・・40種。蝶、蛾の仲間・・・88種。

甲虫の仲間・・・60種。ハチなどの仲間・・・47種。

バッタの仲間・・・13種。トンボの仲間・・・10種。

カメムシその他の仲間・・・34種。合計292種。

この中には、初見や、未同定の種が含まれます。

同定できるとうれしいので、

これからもがんばりすぎない程度に…。((昆) 虫班 Kさん)

イベント報告

大盛況！トビハゼ祭り

保護区のトビハゼは世界のトビハゼ類の北限！！

6/10(土) 第1回 トビハゼ祭りが開催されました。

普段スタッフの案内のみで入れる保護区と導流堤（部分開放）に自由に入り、トビハゼを観察できるイベントとなりました。（参加者数のべ 290 名）

それにあわせて、スタンプラリーやオリジナルトビハゼグッズ作成も行いました。

イベントに参加するとトビハゼの小冊子が配られ、トビハゼのことがとてもよくわかります。世界に1つオリジナルグッズ（有料）は

『なりきりトビハゼバンダナ』&『とってもおしゃれ？トビハゼマスコット』バンダナには布用のペンで顔やひれを書き、頭にかぶればトビハゼさんの出来上がり。マスコットは、繁殖期のピンク色や金運アップ？金色に塗ってネックレスに！参加していただいた子供から大人まで、楽しんで作成していました。



保護区の様子



素敵なバンダナ



配られた冊子



スタンプラリー

フィールドミュージアム 6/18(日) わくわくカニっ子大行進 参加 49 名

保護区内の生き物を実際に観察しながらプロの先生と一緒に学んでいきます

昨年好評だったテーマの「カニ」。講師は保護区を含む東京湾岸でカニ調査をされていた柚原剛さん(東北大学)。陸域に多いベンケイガニの仲間を中心にカニルート・小島岬・百合ヶ浜・町田池水路(下流部)で採集し、観察舎芝生で解説・観察を行いました。

保護区には 20 種近くのカニが生息していますが、当日 2 時間で 10 種を確認。保護区の環境の多様性と貴重さを実感できたのではないのでしょうか。



採取したカニ一覧

江戸前干潟研究学校 6/16(金)4 名、7/16(日)43 名

保護区内の生き物を実際に観察しながらプロの先生と一緒に学んでいきます



採集されたメジナ

6 月は自主調査ということで平日に有志で実施。昨年 9 月以来久しぶりにウナギが捕獲(長靴池の網籠)。百合ヶ浜沖の大網ではコノシロとニクハゼが各 2500。アカニシ(研究学校初記録)など。7 月も研究学校初記録のマアナゴ・ヘダイ・メジナ・サヨリ・テッポウエビが出現(いずれも百合ヶ浜沖の大網)。東京湾の赤潮で逃げてきたのでしょうか。

次回

内容は事務局までお問い合わせ下さい。

フィールドミュージアム：9/24(日)『トンボと親しむ』

江戸前干潟研究学校：9/17(日)

研究会の調査活動やイベント情報をお知らせするメーリングリスト(月 1 回程度配信)もあります。登録希望の方は友の会までアドレスをご連絡下さい。

(研究会事務局 047-397-9046 担当 野長瀬雅樹)

平成28年度定期総会開催

5月14日（日）平成28年度定期総会が行徳野鳥観察舎管理棟にて開催され、提案された事業報告・収支決算の議案は承認可決されました。

平成28年度は、前年度と同様、水鳥をはじめとする野生生物が生息できる湿地環境の保全と復元を中心に活動しました。

野鳥観察舎動向については千葉県他関係各所との連携・情報収集に努めました。

理事長以下が一新し、新体制での活動基盤作りを進めています。

なお、事業報告ならびに収支決算はHPをご参照ください。

(<http://gyotokubird.wixsite.com/npofgbo/blank-lnngt>)



友の会 HP

※紙ベースの資料をご覧になりたい方は、当会までお問い合わせください

行徳地域野鳥カウント

シギ各種やオオヨシキリも記録されました。

平成29年4月25日と5月14日、行徳地域の野鳥を数える調査が行われました。全部で50種、約4700羽の鳥が記録されました。

全国的に激減している湿地の渡り鳥シギ・チドリの仲間、近年行徳一帯でみかけなくなってきた湿原の小鳥オオヨシキリとセッカも姿を見せ、担当者は胸をなでおろしました。

行徳鳥獣保護区で集団繁殖しているカワウは約3500羽、例年並みでした。

（カワウは、時間帯により移動・出入りが激しく、カウントされる数は毎回かなり差があります）

カウントデータは友の会HPで紹介予定です。

(<http://gyotokubird.wixsite.com/npofgbo/>)



友の会 HP

5・6月 保護区の鳥の様子

2017年5月から6月の保護区鳥類調査の結果です。この2ヶ月で38種を記録しました。冬鳥がほぼいなくなり種数は急に減りましたが、旅鳥のシギ・チドリ類が現れ、多くの鳥にとっては繁殖期が本格化します。

ハシブトガラス、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリ、ムクドリ、スズメ、カワラヒワなどの若鳥の姿をよく目にしました。6月初旬は保護区に多いサクラの実が熟する時期なので、この実を食べに、これらの若鳥達もたくさん集まっていました。とくにムクドリは500羽近く記録した日もありました(6/10)。

カルガモの雛連れ家族は、少なくとも保護区内に1家族、丸浜川には3～4家族はいたようです。

珍しいクロツラヘラサギが北池で採餌する姿が見られました。

(川上 正敬)

水鳥類

カルガモ
コガモ
ホシハジロ
キンクロハジロ
スズガモ
カイツブリ
カワウ
ゴイサギ
アオサギ
ダイサギ
チュウサギ
クロツラヘラサギ
バン
オオバン
コチドリ
タシギ
チュウシャクシギ
キアシシギ
イソシギ
ウミネコ

猛禽類

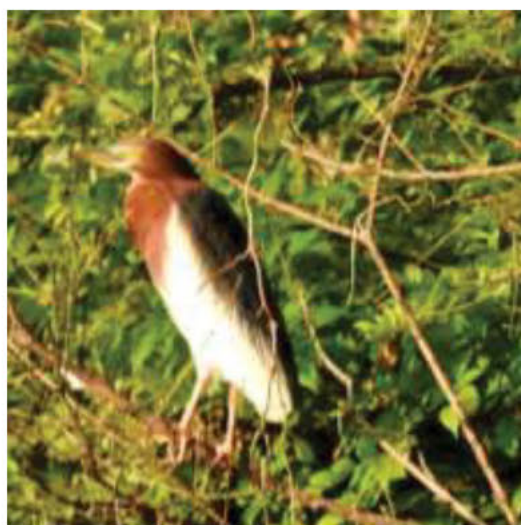
チョウゲンボウ

その他小鳥など

キジ
キジバト
カワセミ
コゲラ
ハシボソガラス
ハシブトガラス
シジュウカラ
ツバメ
ヒヨドリ
オオヨシキリ
セッカ
ムクドリ
スズメ
ハクセキレイ
カワラヒワ
ホオジロ
ドバト

ニュース

【アカガシラサギ登場！】



6/14 夕方(これ以降確認できず)
長靴池にひっそりと佇んでいました。夕日を浴びて羽の美しさが際立っています。

イベント案内

●→雨天中止 ★→荒天中止 ☆→小雨決行

●ボランティアデー(毎月第4土曜)

スタッフと一緒に保護区の管理作業をしてみませんか?

〈次回〉8/26、9/23(土) 13時～16時ごろ

集合：行徳野鳥観察舎前

作業内容は未定。お楽しみに!

開催日の3日前～前日に下記連絡先(観察舎)にてご確認ください。**祝日でも開催**

＜前回＞



←6/24 湊(みなと)池
棚田田植え(参加15名)

7/21
小島岬(こじまみさき)
ゴミ拾い(参加6名)

●夜の生き物観察会

ライトに集まる生き物を観察します。

8/19(土) 19時～20時半(雨天翌日)

小学生以上30名・要申込※小学生は要保護者同伴
参加費大人200円・中高生100円、小学生以下無料
持物：懐中電灯・飲料・虫よけ

★クモの観察会

保護区にいるクモはなんてクモ?

8/27(日)9時～12時 定員30名

小学生以下は要保護者同伴

★キノコの観察会

どんなキノコに会えるかな?

9/18(月・祝)10時～15時 要昼食

参加費 300円

定例観察会

特記がない場合

集合は行徳野鳥観察舎前

●定例園内観察会(毎週日曜・祝日)

集合：行徳野鳥観察舎前 13時半～15時半

★定例新浜探鳥会(毎月第2日曜日) 9月10日、10月8日

集合：行徳駅前の広場(改札出て左) 10時～ 持ち物：昼食、飲み物、

参加費：200円(18歳未満は無料) 「放水路経由コース」は+バス代400円(子供200円)

・「新浜保護区コース」保護区内→観察舎前/解散 13時半

・「放水路経由コース」バスで江戸川放水路まで→保護区内→観察舎前/解散 15時半

◎主催：行徳野鳥観察舎友の会、日本野鳥の会東京、千葉県野鳥の会

☆夕暮れ観察会(毎月第4土曜日) 8月26日、9月23日、10月28日

集合：行徳野鳥観察舎前 16時半～18時半

●平日観察会(第1木曜日 ※祝日の場合は翌週) 9月7日、10月5日

集合：行徳野鳥観察舎前 10時～12時

●ミニガイド(毎週土曜日 ※第4土曜日・祝日・イベントがある日はお休み)

集合：行徳野鳥観察舎 13時半～14時

すずがも通信 No.225(隔月発行) 2017年8月13日発行 *****

発行所

認定特定非営利活動法人行徳野鳥観察舎友の会

[千葉県行徳野鳥観察舎 〒272-0137 市川市福栄4-22-11 Tel047-397-9046]

E-mail tomonokai_suzugamo@ybb.ne.jp

URL <http://gyotokubird.wixsite.com/npofgbo>

年会費

- ・賛助 3000円以上
- ・普通 2000円
- ・電子 1000円
- ・ジュニア(18歳以下)500円
- ・法人・団体 10000円以上

編集 堀江聡美 印刷 株式会社プリントパック



Instagram



Twitter